

# **第5回（1-3月期）**

## **川口商工会議所**

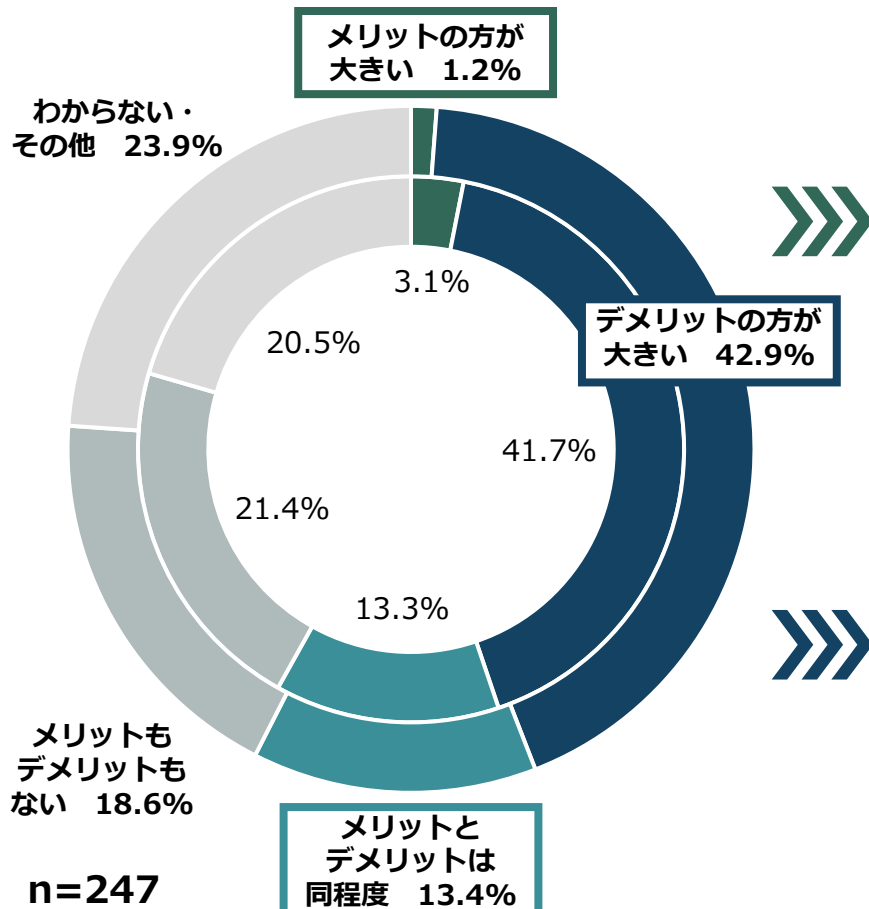
# **クロースアップ<sup>o</sup>市内景況調査**

2025年5月 川口商工会議所

# 【トピックス①】 政策金利上げの影響

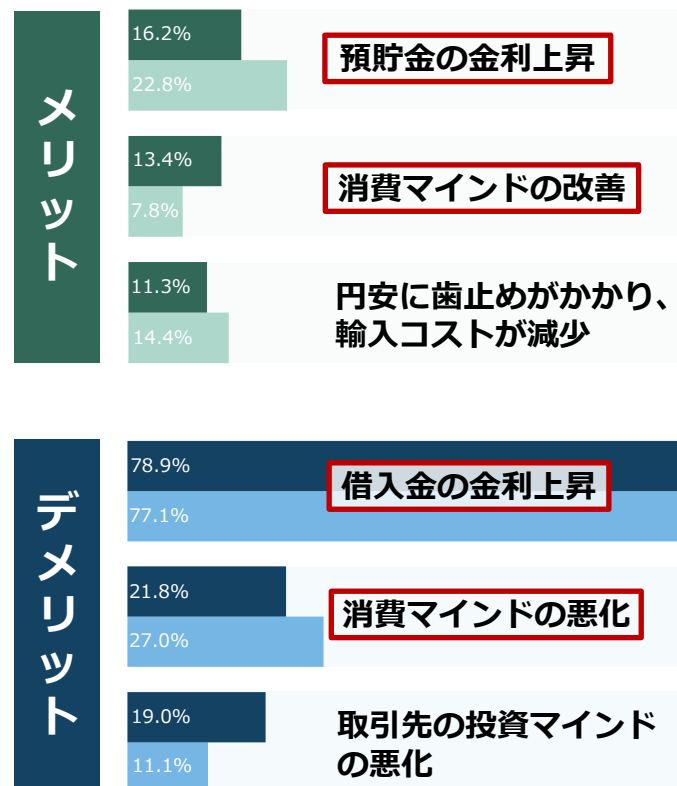
## ①業績に与える影響

外側：川口、内側：全国



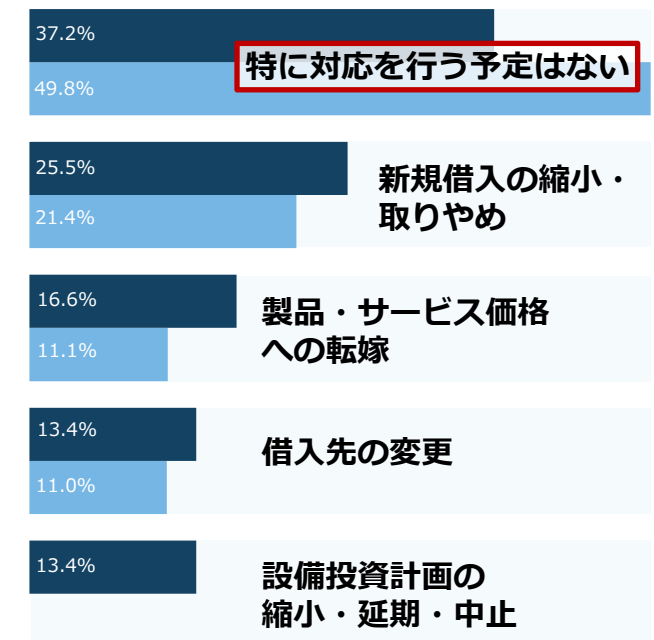
## ②具体的な影響

上段：川口、下段：全国（上位3位のみ）



## ③今後の金利上昇への対応予定

上段：川口、下段：全国（上位5位のみ）



川口で5位の「設備投資計画の縮小・延期・中止」は、全国の数値は発表されていません

※全国＝商工会議所LOBO調査（早期景気観測調査）2025年3月から引用

## 考察

- ①業績に与える影響では、「**デメリットが大きい**」が**42.9%と最多**となった。一方で「メリットの方が大きい」(1.2%)、「メリットとデメリットは同程度」(13.4%) とメリットを感じる回答も一定程度あった。
- ②具体的な影響では、メリットの最多は「預貯金の金利上昇」(16.2%)、デメリットの最多は「借入金の金利上昇」(78.9%) で、後者が多く、事業資金に他人資本（銀行からの借入等）の割合が高い**中小企業では、大企業と比べて負担感のインパクトが大きい**。また、メリットの2位「消費マインドの改善」(13.4%) より、デメリットの2位「消費マインドの悪化」(21.8%)が多く、**消費者マインドはプラスよりマイナスの影響が大きい**と捉えている。
- ③今後の金利上昇への対応予定では、「**特に対応を行う予定はない**」(37.2%) が最多の回答となった。

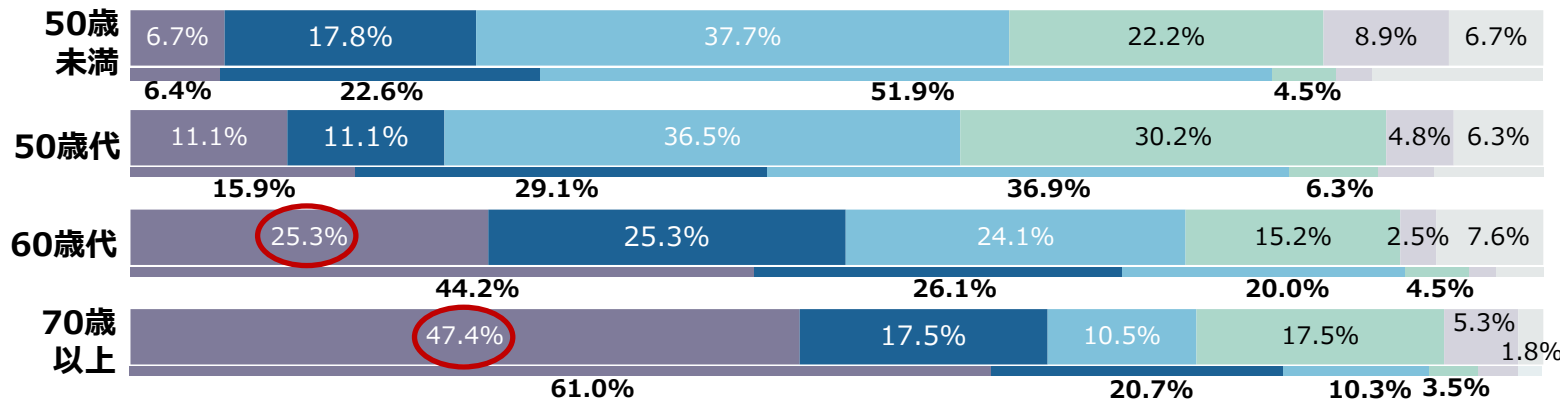
## 【トピックス②】 事業承継の現状

### ① 後継者の決定状況

上段：川口、下段（細線）：全国

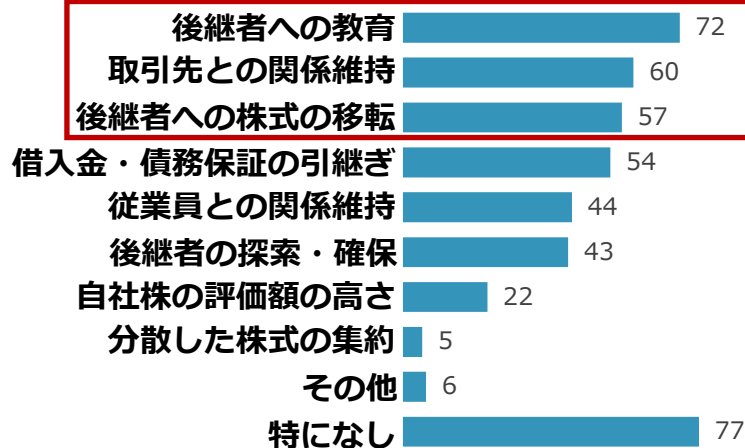
n=246（年齢未回答1者を除く）

※全国＝日本商工会議所「事業承継に関する実態アンケート・調査結果（2024年3月22日）」から引用

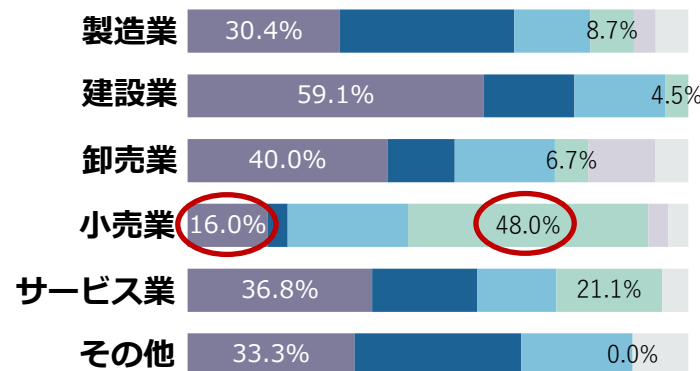


既に後継者を決めている  
後継者候補はある  
後継者を決めているが、事業は継続したい  
自分の代で廃業する予定  
M&A等で会社を譲渡する予定  
その他

### ② 事業承継の課題・障害（複数回答）

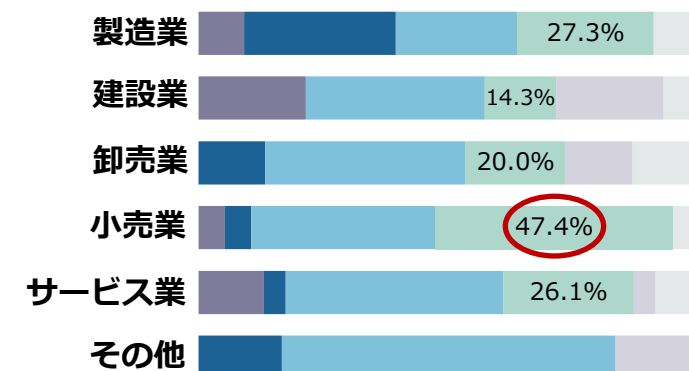


### ③ 後継者の決定状況（60歳代以上）



n=136

### ③' 後継者の決定状況（50歳代以下）



n=110

## 考察

- ①「既に後継者を決めている」との回答が60歳代で25.3%（全国との差異▲18.9%）、70歳代で47.4%（全国との差異▲13.6%）となっており、全国と比較してかなり少なく、早急な対応が課題となっている。
- ②事業承継に当たっての課題・障害は「後継者への教育」が最も多く、「取引先との関係維持」「後継者への株式の移転」が続く。いずれも対応に時間がかかるため、早めに事業承継計画を立てて対応へ着手することが望まれる。
- ③後継者の決定状況（60歳代以上）を業種別にみると、小売業は「既に後継者を決めている」は16.0%にとどまり全業種で最も少なく、「自分の代で廃業する予定」は48.0%で最も多い。小売業は、事業承継を考える前の方が多い50歳代以下の時点で「自分の代で廃業する予定」が47.4%に上るなど、厳しい経営環境が表れている。

# 【景況感】 ◆全業種の業況（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）

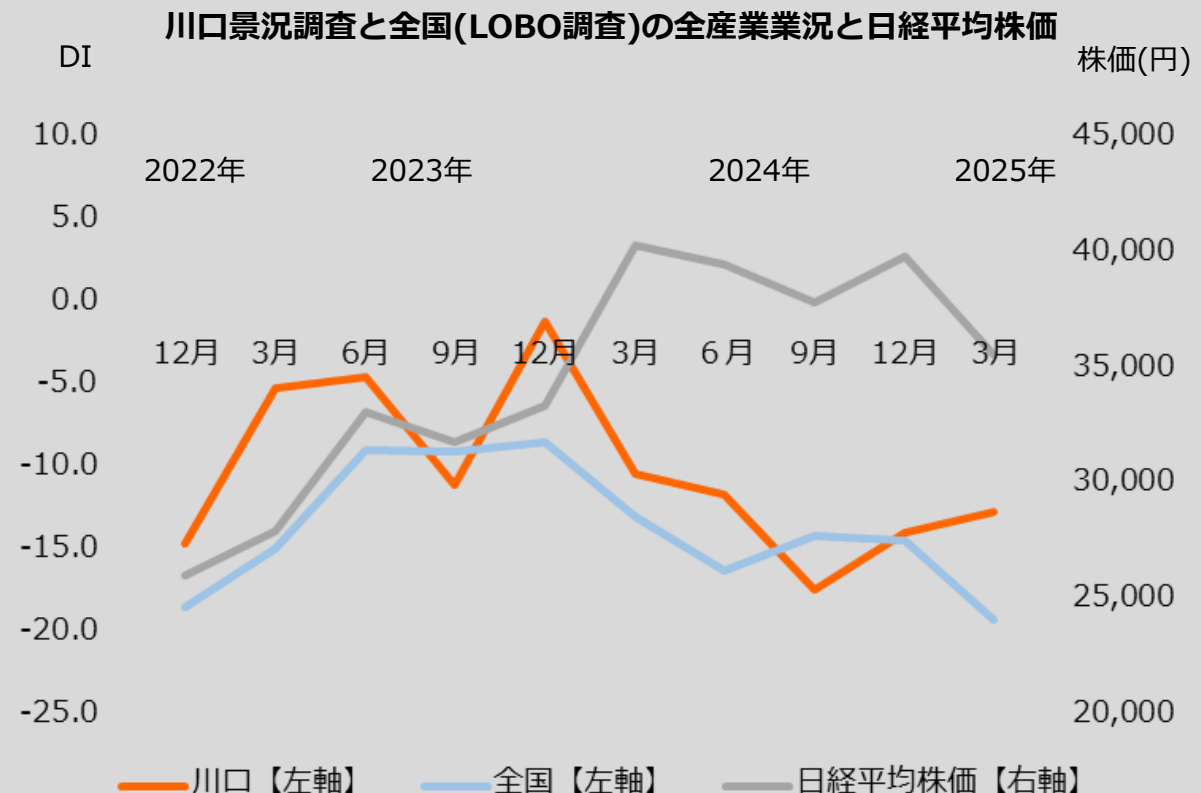
業況DIは、全業種マイナスも、年度末需要で小幅改善  
先行きは、消費低迷と景気不透明さで慎重な見方続く

## ●全産業合計の業況は▲12.6（前期比+1.3ポイント）

- 全業種でマイナスとなった。特に建設業は大幅に悪化し、前期のプラスが今期はマイナスに転じた。一方、製造業、卸売業、小売業、サービス業はマイナスが続くも、前期から小幅改善。
- 建設業は、仕事量は維持できているものの、建設資材高騰や人材不足により民間工事の計画が中止となるケースも。進行中の場合も工期延長に伴って外注費がかさむなど採算が悪化している。
- 製造業は、足元の需要は安定しており、売上高はわずかながらプラスに。小売業とサービス業は消費低迷の影響を受けてマイナスにとどまるものの、年度末需要を取り込みわずかに改善。卸売業は小売業とサービス業の引き合い増を受け、こちらもわずかに改善した。
- 業種を問わず、仕入単価や人件費、輸送費の上昇と高止まりが継続している。度重なるコスト増を事業の前提条件と捉え、価格転嫁をいかに戦略的に進めていくかが重要なポイントとなってきた。

## ●先行き見通しは▲21.1（今期比▲8.5ポイント）

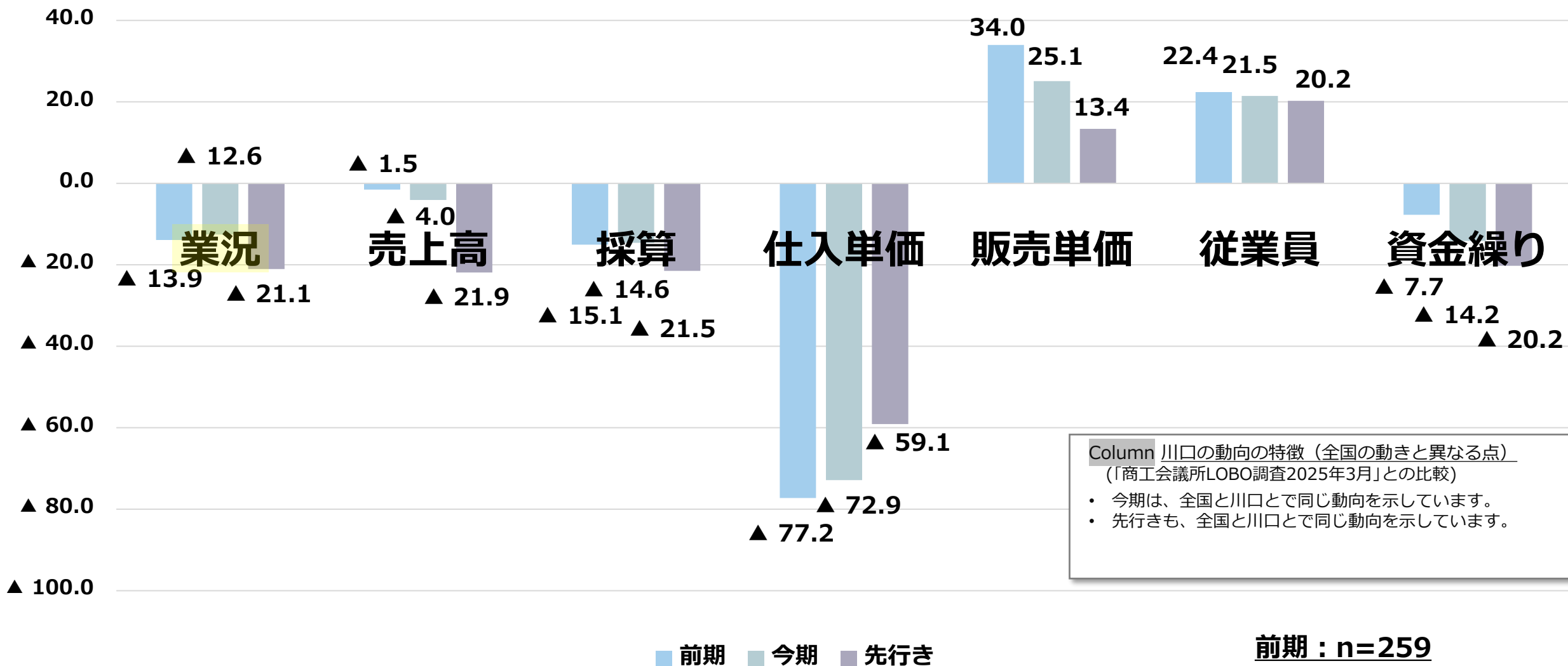
- 全業種でマイナスを予想。消費低迷に加えて設備投資の計画中止も増えて足元の需要が減少していることから、売上高は全業種で今期よりも減少を見込んでいる。アメリカの関税政策による国内景気の影響が不透明であることも、見通しを慎重にさせている。
- 上記の通り厳しい外部環境の中、建設業とサービス業の業況は、今期から小幅改善を予想している。上記2業種では、先行きの業況を「好転」とした企業は全件が販売単価「上昇」「不変」としており、事業運営における価格転嫁の重要性が増していると考えられる。



業況DI（※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合）

|          | 2022年  | 2023年  |        |        |       | 2024年  |        |        |        | 2025年  | 先行き見通し |
|----------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|          | 12月    | 3月     | 6月     | 9月     | 12月   | 3月     | 6月     | 9月     | 12月    | 3月     | 6月     |
| 全産業      | ▲ 14.6 | ▲ 5.1  | ▲ 4.4  | ▲ 11.0 | ▲ 1.1 | ▲ 10.3 | ▲ 11.6 | ▲ 17.4 | ▲ 13.9 | ▲ 12.6 | ▲ 21.1 |
| 製 造      | ▲ 10.0 | 1.9    | ▲ 2.9  | ▲ 4.0  | ▲ 5.7 | ▲ 2.5  | ▲ 14.1 | ▲ 15.3 | ▲ 11.8 | ▲ 11.4 | ▲ 34.2 |
| 建 設      | ▲ 31.6 | ▲ 11.1 | ▲ 2.5  | ▲ 7.3  | 5.4   | ▲ 6.5  | 0.0    | ▲ 11.4 | 6.7    | ▲ 13.9 | ▲ 8.3  |
| 卸売・小売・飲食 | —      | —      | —      | —      | —     | —      | —      | —      | —      | —      | —      |
| 卸売・小売    | ▲ 28.0 | ▲ 19.5 | ▲ 17.9 | ▲ 15.2 | 0.0   | —      | —      | —      | —      | —      | —      |
| 卸 売      | —      | —      | —      | —      | —     | ▲ 20.0 | ▲ 17.9 | ▲ 12.9 | ▲ 23.1 | ▲ 13.3 | ▲ 13.3 |
| 小 売      | —      | —      | —      | —      | —     | ▲ 22.7 | ▲ 26.8 | ▲ 40.0 | ▲ 31.7 | ▲ 27.3 | ▲ 34.1 |
| 飲 食      | ▲ 28.1 | ▲ 18.2 | 66.7   | ▲ 20.0 | 5.0   | —      | —      | —      | —      | —      | —      |
| サービス     | 4.5    | 0.0    | ▲ 2.6  | ▲ 17.4 | ▲ 5.0 | 0.0    | 2.7    | ▲ 7.3  | ▲ 20.0 | ▲ 7.1  | ▲ 4.8  |

# 【景況感】 ◆全産業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）



前期：n=259  
今期・先行き：n=247

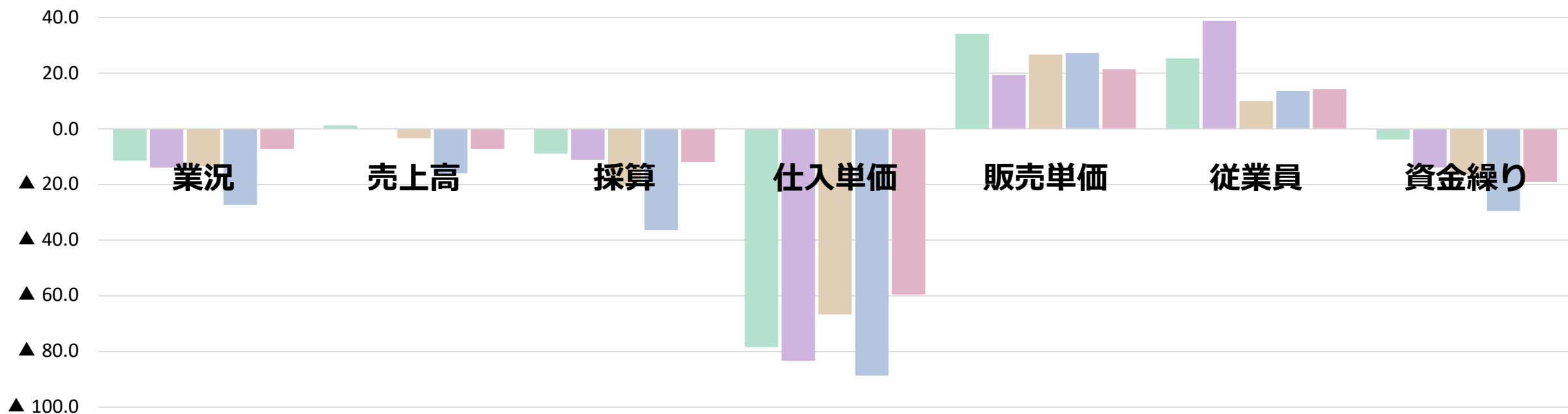
## 考察

- ・ 業況は、今期は悪化傾向がやや弱まるものの、先行きは悪化傾向が強まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は消費低迷等で減少傾向がやや強まっており、先行きは減少傾向がさらに強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は仕入単価の落ち着きで悪化傾向がやや弱まるものの、先行きは悪化傾向が強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向がやや弱まっており、先行きは上昇傾向が引き続き弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は価格転嫁の一巡で上昇傾向が弱まっており、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや弱まっており、先行きは不足傾向が引き続きやや弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向が強まっており、先行きは悪化傾向が引き続き強まる見通しである。

# 【景況感】 ◆業種別の動向

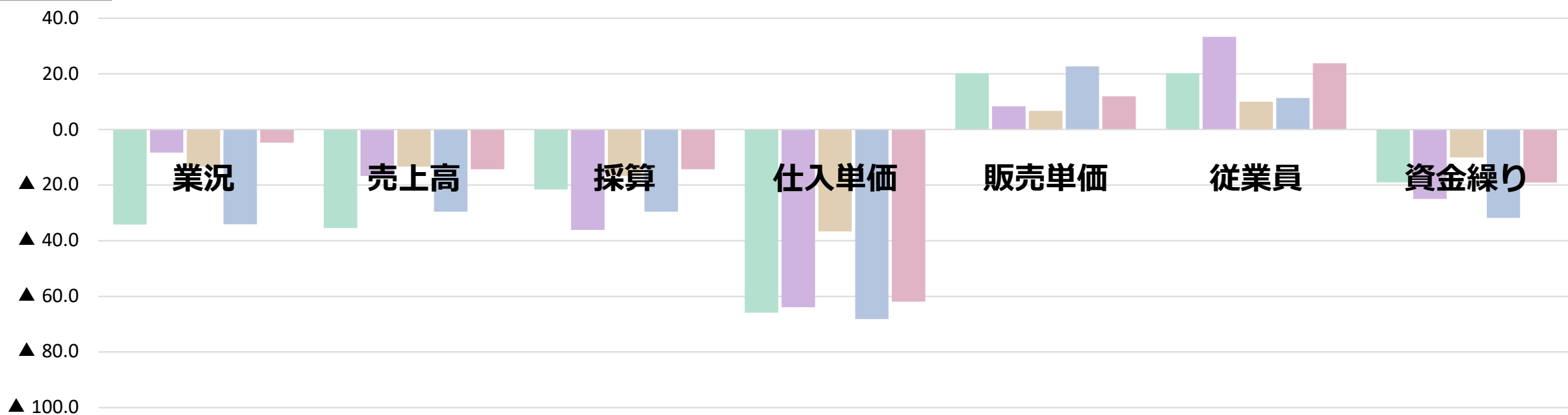
今期

製造業 建設業 卸売業 小売業 サービス業



先行き

製造業 建設業 卸売業 小売業 サービス業



## 【景況感】 ◆業種別の業況（前期<sub>(10-12月)</sub>-今期<sub>(1-3月)</sub>-先行き<sub>(4-6月)</sub>）



製造業

（今期）業況は前期と同水準の悪化傾向が継続した。足元の需要は安定しており売上高はわずかに増加となったが、仕入価格の上昇やエネルギー価格の高止まりで採算は悪化している。  
（先行き）業況は悪化傾向が大幅に強まる見通し。消費低迷や設備投資の計画中止もあって需要が減少し、販売単価の上昇傾向が弱まる。このため売上高は大幅に減少し、採算は悪化を予想。



建設業

（今期）業況は前期の好転から悪化に転じた。売上高は現状維持も、建材価格の高止まりや工期延長に伴う外注費増加で採算悪化。価格転嫁交渉も難航し、販売単価の上昇傾向は大幅に弱まる。  
（先行き）業況は悪化傾向が弱まる見通し。仕事量は確保できても、工期延長によって入金が遅れ資金繰りが悪化する事業者も。人手不足による外注費増や採算悪化も続くと予想。



卸売業

（今期）業況は悪化が続くも前期より改善した。小売業やサービス業の小幅改善で引き合いが増え売上高も小幅改善。一方で仕入価格や輸送費は高止まりし、採算の悪化は続いている。  
（先行き）業況は同水準の悪化が続く見通し。販売単価の上昇傾向は大幅に鈍化し、売上高は減少予想。また仕入単価の上昇傾向は改善するも、為替や金利が不透明で、採算改善には至らない。



小売業

（今期）業況は悪化が続くも前期より改善した。消費低迷は続くも、年度末需要で業況、売上高、採算、資金繰りの4項目は前期より改善。一方で仕入単価は高止まりし、採算の足を引っ張る。  
（先行き）業況は悪化傾向が強まる見通し。新年度に入るも消費は上向かず、売上高は弱い。一方で仕入単価は上昇に歯止めがかかり、採算は小幅改善を予想するなど良い兆しも見える。



サービス業

（今期）業況は悪化が続くも前期より改善した。飲食店は閑散期で売上高が減少するも、生活サービス業は比較的好調。仕入単価やエネルギー価格は高止まりし、採算の悪化が続いている。  
（先行き）業況は悪化傾向が弱まる見通し。消費低迷が続く中、仕入単価等の上昇を価格転嫁して採算や売上高が改善を予想する事業者と、価格転嫁できず不振予想の事業者の二極分化が進む。

## 【景況感】 ◆経営状況に関する具体的な声（主要なものを抜粋）



製造業

- 価格転嫁は進むものの出荷量の減少で利益が増えない（鋳造業）
- 賃上げが進まず人材確保が難しい（医療機器製造業）
- 働き方改革のしわ寄せで経営者の労働時間が増えており健康が不安（家具製造業）
- 人件費上昇分の価格転嫁は困難。最低賃金の大幅上昇は控えてほしい（機械加工業）
- トランプ政権の関税政策により、設備投資が冷え込むことを懸念している（産業用機械製造業）



建設業

- 材料費高騰の影響で設備投資が減少していると感じている（電気工事業）
- あらゆる資材や原材料について高騰している（内装業）
- 当社は仕入がないため原材料高騰の悪影響を回避できている（工事管理業）
- 建材の高騰、職人の賃金上昇、土曜休日の影響で工期延長や着工延期が増えている（機械部品製造業）
- 公共工事は不調が増加し、民間工事は計画中止が増えている（鋳造業）

※ ■は製造業者による建設業に関連する声



卸売業

- 仕入単価が上昇しているが、材料費や工事費は変えられないと買い渋る得意先が増え、客単価は下落している（建材卸売業）
- コロナ後のライフスタイル変更で売上が減少し、コロナ融資の返済負担で資金繰りが厳しい（化粧品卸売業）
- 建設業者が金利上昇へ敏感に反応しており今後が心配（木材卸売業）
- 今後の為替、輸入関税の変動によって対応を見極めたい（商品輸入販売業）



小売業

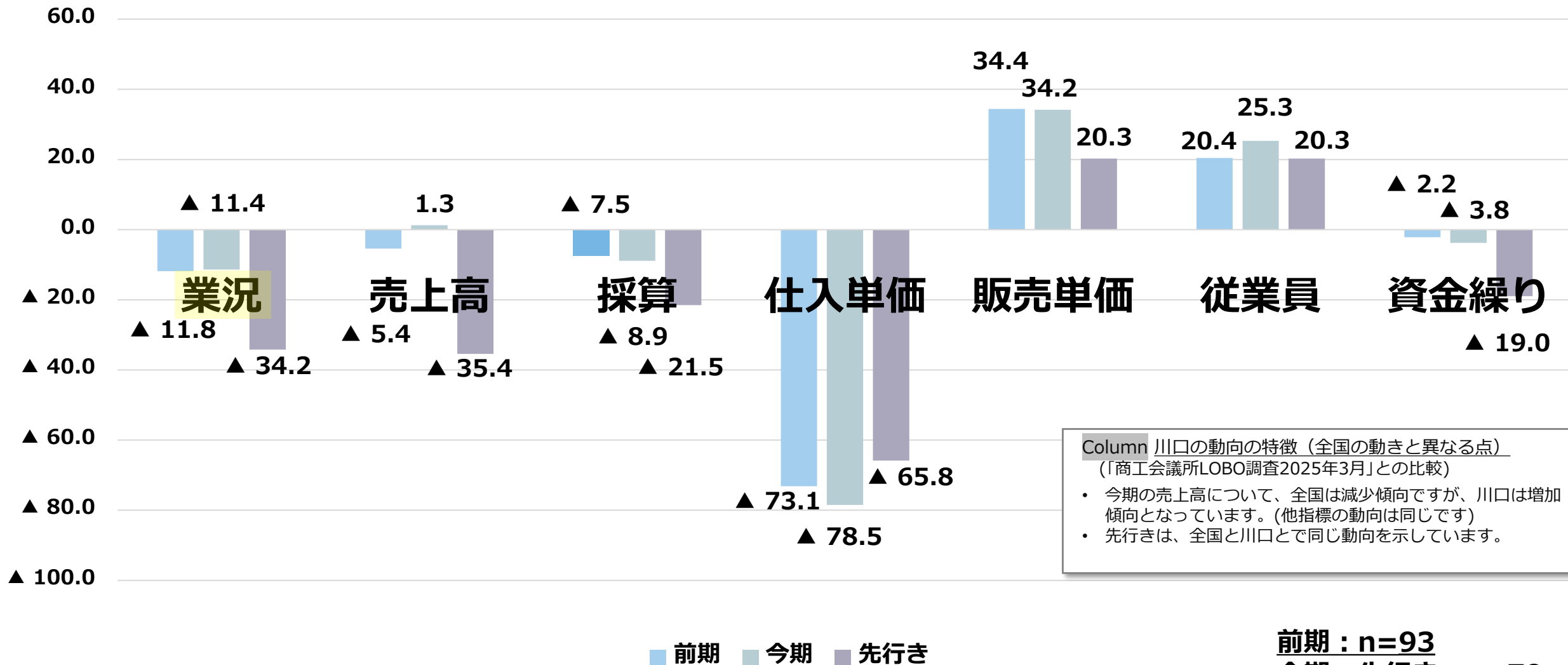
- 原材料高騰に伴い値上げしたが、高騰が止まらず値上げが追い付かない（弁当販売業）
- 樹モールプラザ開業で人通りは増えたが、集客につながっていない（洋品販売業）
- 酒類の販売減少に伴い、利幅の少ないタバコの割合が増え、経費上昇の影響を強く受けている（酒類販売業）
- インボイスや販売価格変更に伴う間接業務が増え、製造に悪影響が出ている（パン・菓子製造販売業）



サービス業

- 物価高の影響が厳しく、何とかしてほしい（飲食業）
- コロナ融資の返済と消費税の負担で経営がひっ迫。融資のめどが立たず、廃業やM&Aを検討している（飲食業）
- 消費減退を感じているため、お金を使いたくなる施策を打ち出してほしい（飲食業）
- 今後サプライチェーンの寸断により輸入品コストが上昇することで、物価へ悪影響を与えることを懸念している（会計事務所）

# 【景況感】 ◆製造業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）

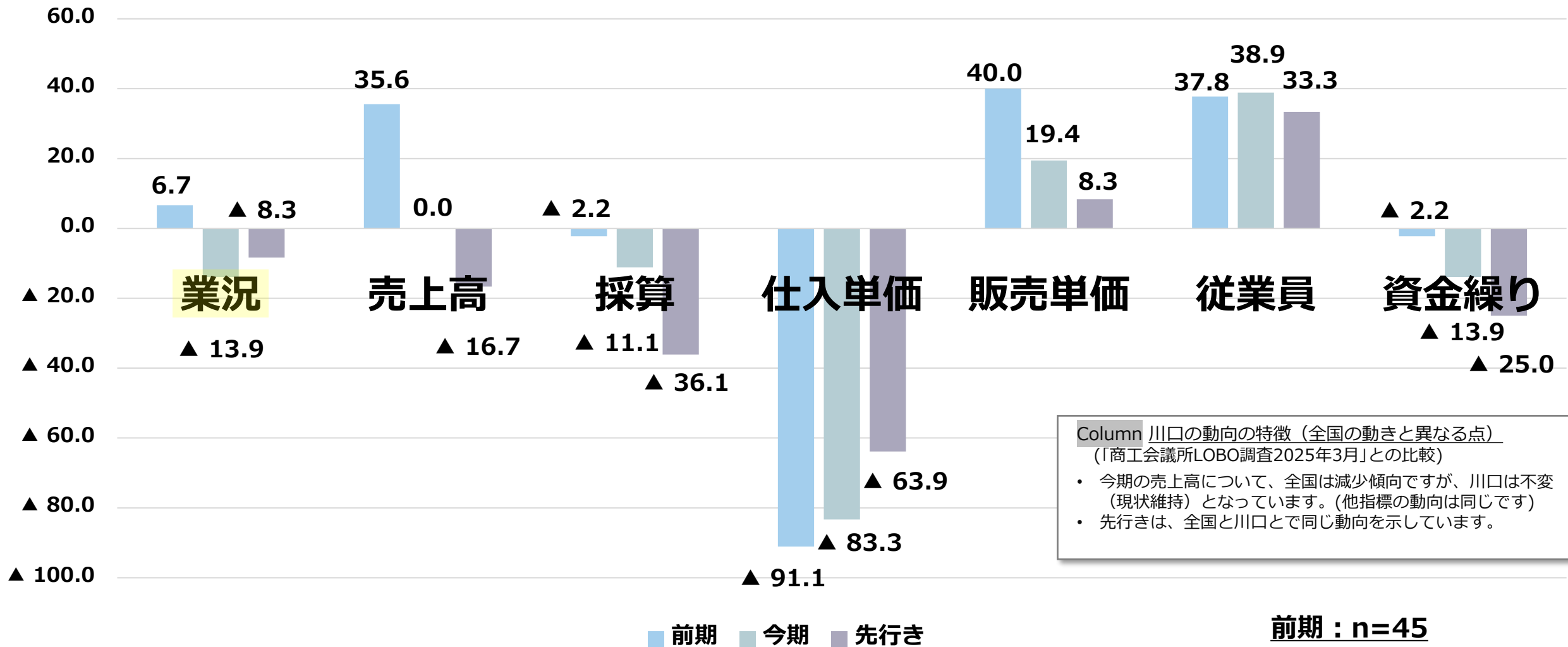


前期：n=93  
今期・先行き：n=79

## 考察

- ・ 業況は、今期は同水準の悪化傾向が継続したものの、先行きは悪化傾向が大幅に強まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は増加傾向に転じたものの、先行きは減少傾向が大幅に強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は仕入価格の上昇等で悪化傾向がやや強まり、先行きは悪化傾向がさらに強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が強まったものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は同水準の上昇傾向が継続したものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや強まったものの、先行きは不足傾向が弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向がやや強まり、先行きは売上高減少に伴い悪化傾向が強まる見通しである。

# 【景況感】 ◆建設業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）

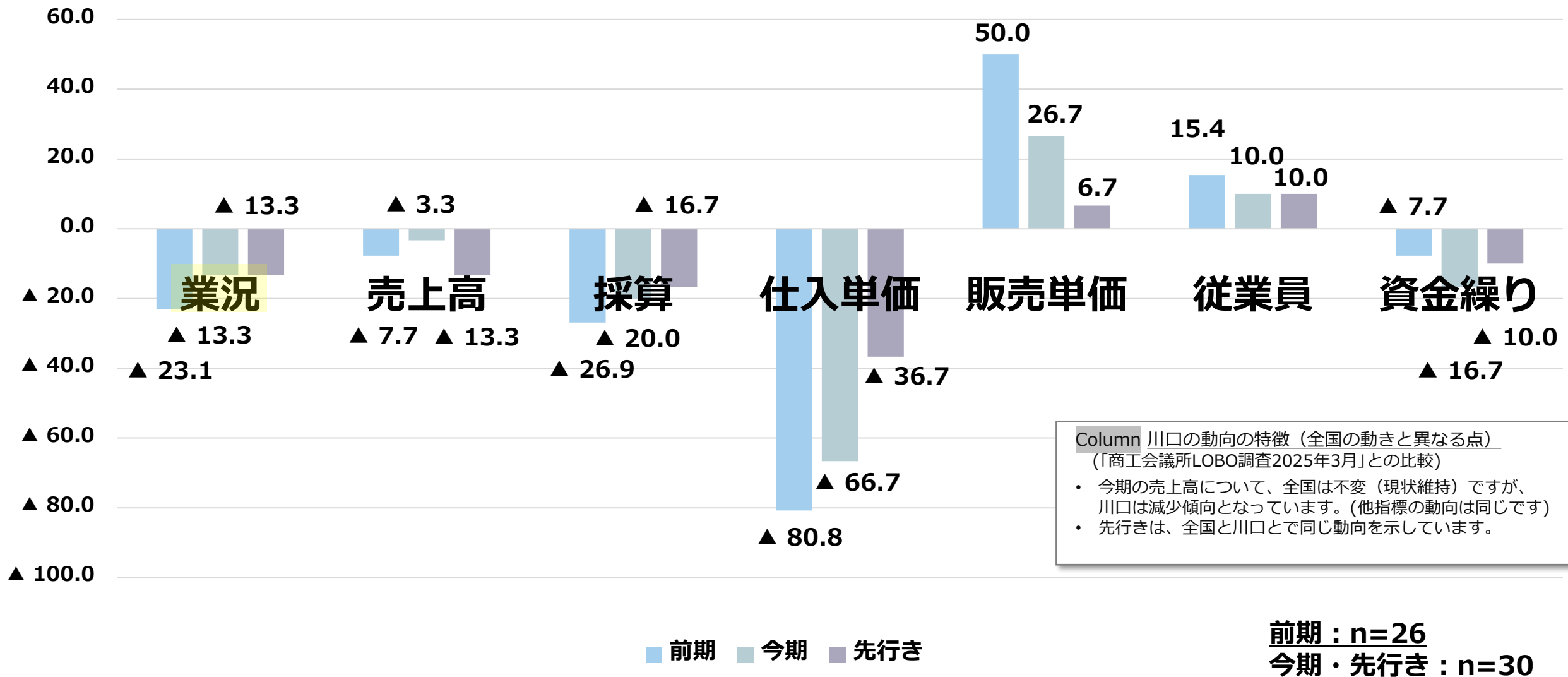


前期：n=45  
今期・先行き：n=36

## 考察

- ・ 業況は、今期は売上高の減少に伴い大幅な悪化へ転じたものの、先行きは悪化傾向が弱まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は現状維持（不変）となったものの、先行きは減少傾向に転じる見通しである。
- ・ 採算は、今期は建材価格の高止まり等で悪化傾向が強まり、先行きは悪化傾向が大幅に強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は上昇傾向が大幅に弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや強まったものの、先行きは不足傾向が弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向が強まり、先行きは悪化傾向がさらに強まる見通しである。

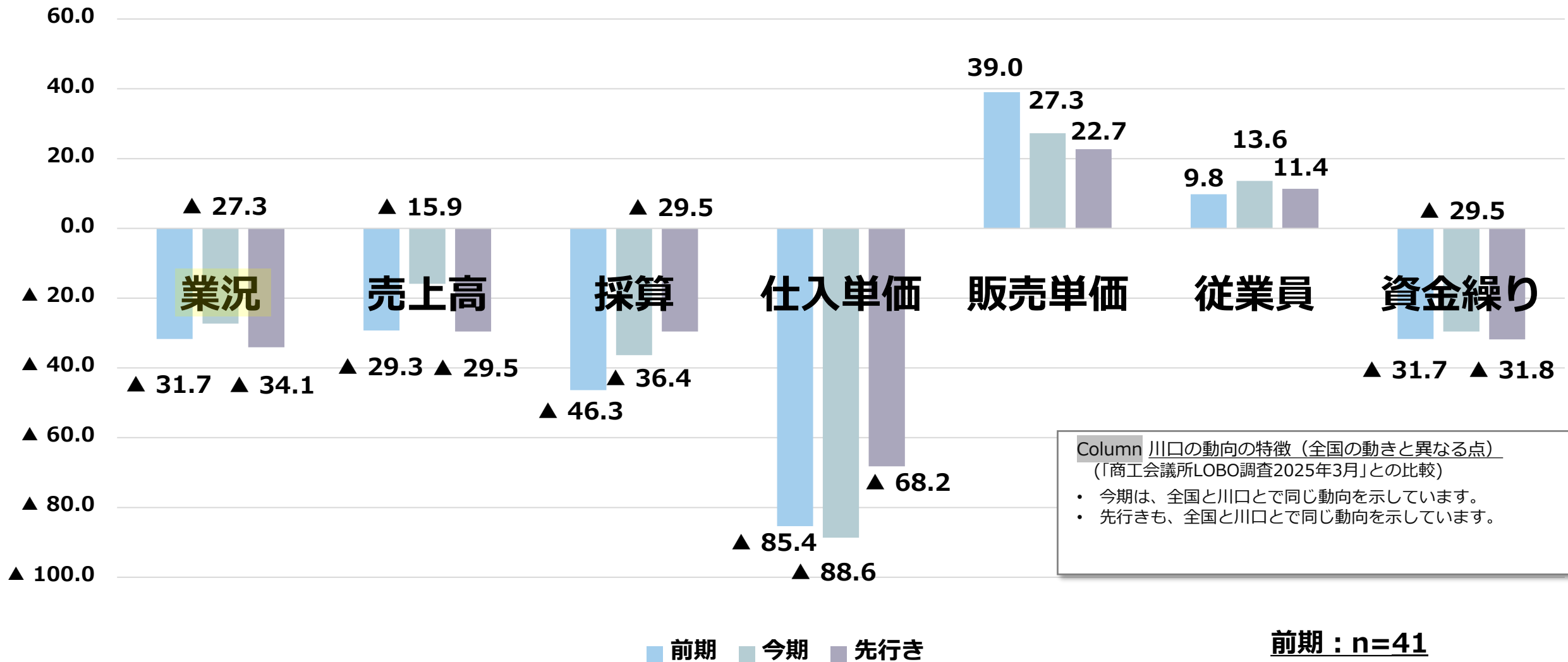
# 【景況感】 ◆卸売業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）



## 考察

- ・ 業況は、今期は悪化傾向が弱まり、先行きは同水準の悪化傾向が継続する見通しである。
- ・ 売上高は、今期は減少傾向がやや弱まったものの、先行きは減少傾向が強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は悪化傾向が弱まり、先行きは悪化傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は上昇傾向が大幅に弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向が弱まり、先行きは同水準の不足傾向が継続する見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向が強まったものの、先行きは悪化傾向が弱まる見通しである。

# 【景況感】 ◆小売業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）

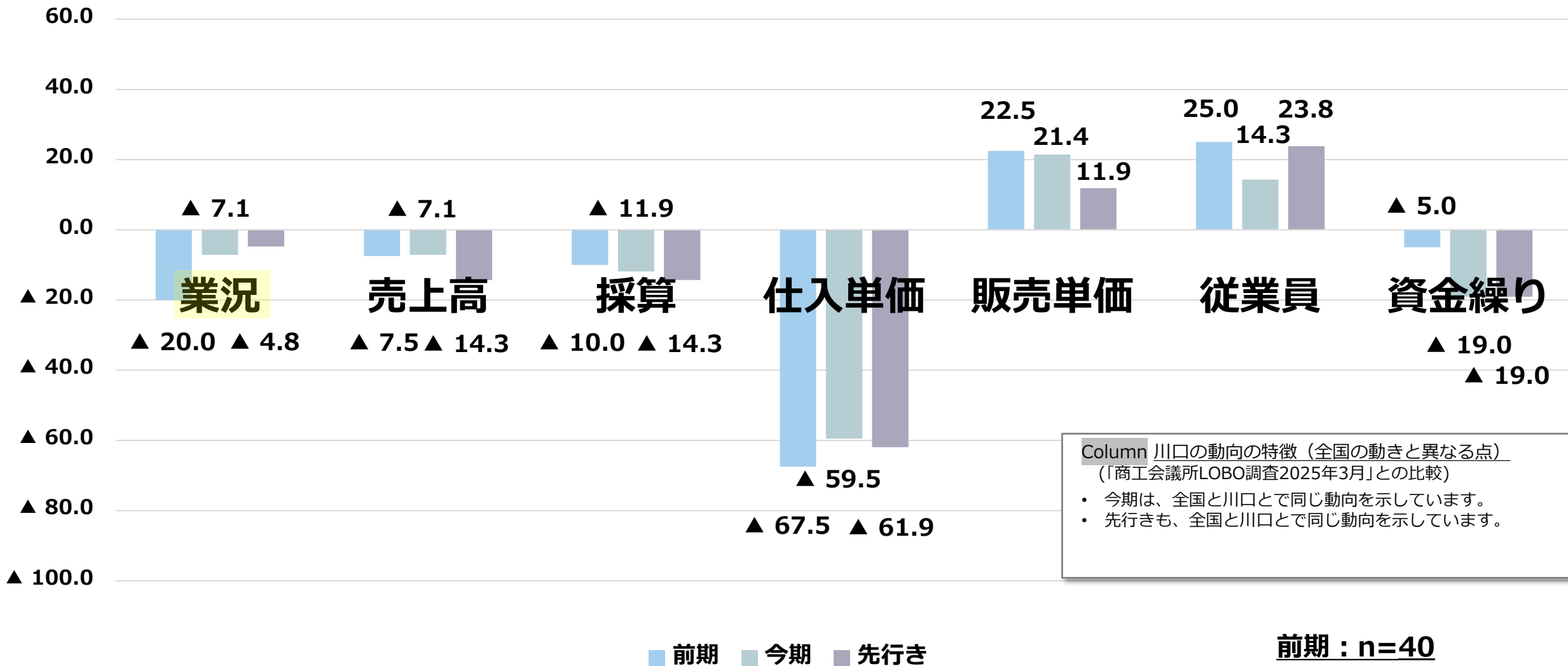


前期：n=41  
今期・先行き：n=44

## 考察

- ・ 業況は、今期は悪化傾向がやや弱まったものの、先行きは悪化傾向が強まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は減少傾向が弱まったものの、先行きは減少傾向が強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は悪化傾向が弱まり、先行きは悪化傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向がやや強まったものの、先行きは上昇傾向が大幅に弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は上昇傾向が弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや強まったものの、先行きは不足傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向がやや弱まったものの、先行きは悪化傾向がやや強まる見通しである。

# 【景況感】 ◆サービス業の動向（前期(10-12月)-今期(1-3月)-先行き(4-6月)）



前期：n=40  
今期・先行き：n=42

## 考察

- ・ 業況は、今期は悪化傾向が弱まり、先行きは悪化傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は同水準の減少傾向が継続したものの、先行きは減少傾向が強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は悪化傾向がやや強まり、先行きは悪化傾向がさらに強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が弱まったものの、先行きは上昇傾向がやや強まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は上昇傾向がやや弱まり、先行きは上昇傾向がさらに弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向が弱まったものの、先行きは不足傾向が強まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向が強まり、先行きは同水準の悪化傾向が継続する見通しである。

## 【参考資料】 ◆調査概要・回答者の状況

### 調査概要

調査期間：2025（令和7）年4月 7日（月）～ 4月 17日（木）

調査対象：会員事業所2,111件（FAX1,082件、メール1,029件） ⇒ 回答数：247件（回答率11.7%）

### 回答者の状況

#### ◆属性

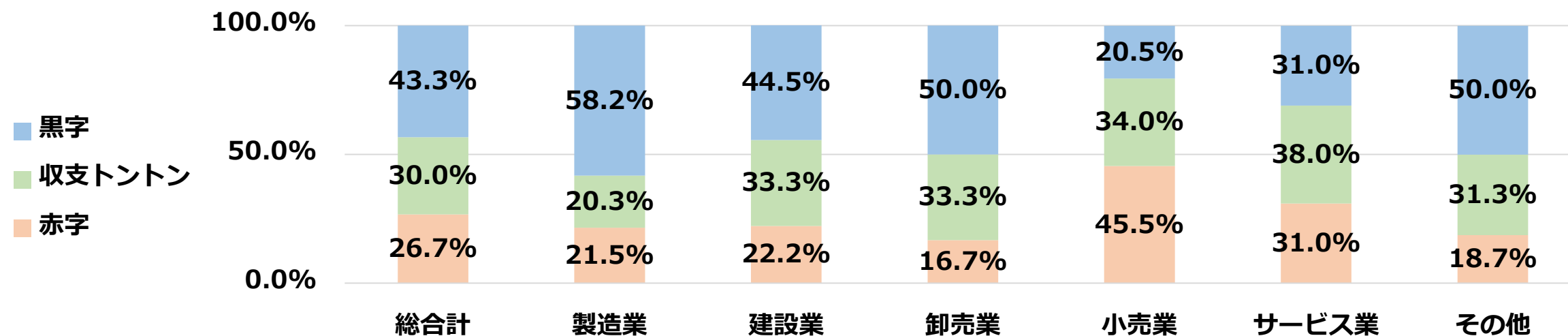
| 業種    | 実数  | 割合    |
|-------|-----|-------|
| 製造業   | 79  | 32.0% |
| 建設業   | 36  | 14.6% |
| 卸売業   | 30  | 12.1% |
| 小売業   | 44  | 17.8% |
| サービス業 | 42  | 17.0% |
| その他   | 16  | 6.5%  |
| 総計    | 247 | 100%  |

| 業歴     | 実数  | 割合    |
|--------|-----|-------|
| 5年未満   | 8   | 3.2%  |
| 5～10年  | 13  | 5.3%  |
| 11～20年 | 37  | 15.0% |
| 21～30年 | 24  | 9.7%  |
| 31年以上  | 165 | 66.8% |
| 総計     | 247 | 100%  |

| 資本金           | 実数  | 割合    |
|---------------|-----|-------|
| 個人事業主         | 33  | 13.4% |
| 500万円以下       | 77  | 31.2% |
| 500万円超～1千万円以下 | 80  | 32.4% |
| 1千万円超～3千万円以下  | 32  | 12.9% |
| 3千万円超～5千万円以下  | 13  | 5.3%  |
| 5千万円超～1億円以下   | 7   | 2.8%  |
| 1億円超          | 0   | 0.0%  |
| その他・未回答       | 5   | 2.0%  |
| 総計            | 247 | 100%  |

| 従業員数     | 実数  | 割合    |
|----------|-----|-------|
| 0～5人     | 141 | 57.1% |
| 6～20人    | 62  | 25.1% |
| 21～50人   | 28  | 11.3% |
| 51～100人  | 8   | 3.3%  |
| 101～300人 | 6   | 2.4%  |
| 301人以上   | 1   | 0.4%  |
| 未回答      | 1   | 0.4%  |
| 総計       | 247 | 100%  |

#### ◆収益状況（直近の決算）



# 【参考資料】 ◆第5回（1-3月期）川口商工会議所 クローズアップ市内景況調査 アンケート用紙

川口商工会議所 総合政策課宛 (FAX 048-228-2221) 川口商工会議所では、景況調査を年6回程度予定しております。  
回答率 50%以上の会員事業所様には年度末に謝礼のクオカードを  
お送りいたします。ぜひアンケートへのご協力をお願い申し上げます。

第5回（1-3月期）川口商工会議所クローズアップ市内景況調査へのご協力をお願い  
2025年4月7日

会員のみなさまへ（必ずご回答くださいますようお願い申し上げます。）  
日ごろより、本商工会議所の事業運営に、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
当所では、市内企業の景況を調査するため、四半期に一度「クローズアップ市内景況調査」を  
実施しております。このたび、第5回（1-3月期）調査を実施いたしますので、お忙しいところ、  
誠に恐縮ですが、該当部分にチェックのうえ、4月17日（木）までに、FAX またはアンケート  
フォーム（右 QR コード）にてご返信いただきますようお願いいたします。

皆様のご協力のもと、本調査結果につきましては、引続き本市中小企業支援や行政への  
意見要望等の参考とさせていただきます。また、過去の調査結果につきましては、本商工会議所  
ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。 川口商工会議所

----- アンケート調査票 -----

問1 貴社の状況についてお伺いします。（1）～（5）についてそれぞれ該当する番号をご回答ください。  
（1）業種 \*複数業種の場合は売上比率の最も高い業種を1つお選びください。  
差し支えなければ、（ ）内に詳しい業種もご記入ください。例）建設業（造園工事業）

|          |            |          |
|----------|------------|----------|
| 1 製造業（ ） | 2 建設業（ ）   | 3 卸売業（ ） |
| 4 小売業（ ） | 5 サービス業（ ） | 6 その他（ ） |

（2）業歴

|         |         |           |           |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 1 5年未満  | 2 5～10年 | 3 11年～20年 | 4 21年～30年 |
| 5 31年以上 |         |           |           |

（3）資本金

|                |                |                 |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1 個人事業主        | 2 500万円以下      | 3 500万円超～1千万円以下 |
| 4 1千万円超～3千万円以下 | 5 3千万円超～5千万円以下 | 6 5千万円超～1億円以下   |
| 7 1億円超～        | 8 その他          |                 |

（4）従業員（正社員）数（パート・アルバイトを除く）をご記入ください。  
\_\_\_\_\_人（代表者を除く）

（5）収益状況（直近の決算）

|      |          |      |
|------|----------|------|
| 1 黒字 | 2 収支トントン | 3 赤字 |
|------|----------|------|

問2 貴社の景況感について、回答できる範囲で、該当部分に☑チェックをご記入ください。  
（1）今期（前年同月比） （2）向こう3カ月の先行き見通し（今月比）

|         |                             |                             |                             |                             |                             |                             |
|---------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 売上高  | <input type="checkbox"/> 増加 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 減少 | <input type="checkbox"/> 増加 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 減少 |
| 2. 採算   | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 |
| 3. 仕入単価 | <input type="checkbox"/> 下落 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 上昇 | <input type="checkbox"/> 下落 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 上昇 |
| 4. 販売単価 | <input type="checkbox"/> 上昇 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 下落 | <input type="checkbox"/> 上昇 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 下落 |
| 5. 従業員  | <input type="checkbox"/> 不足 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 過剰 | <input type="checkbox"/> 不足 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 過剰 |
| 6. 景況   | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 |
| 7. 資金繰り | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 | <input type="checkbox"/> 好転 | <input type="checkbox"/> 不変 | <input type="checkbox"/> 悪化 |

問3 2024年3月日本銀行はマイナス金利政策を終了しました。その後、短期金利の誘導目標を0.5%まで引き  
上げる追加利上げを同年7月、今年1月に実施しました。こうした政策金利の引上げの動きに対して以下  
の設問にご回答ください。

問3-1 政策金利の引上げが貴社の業績に与える影響について、選択肢から1つお選びください。  
☐ 1：メリットの方が大きい ☐ 2：デメリットの方が大きい  
☐ 3：メリットとデメリットは同程度 ☐ 4：メリットもデメリットもない  
☐ 5：わからない ☐ 6：その他（ ）

※質問3-1で選択肢1～3と回答した方にお伺いします。（「1：メリットの方が大きい」、「2：デメリットの  
方が大きい」、「3：メリットとデメリットは同程度」）

問3-2 具体的な影響について、選択肢からお選びください（複数該当する場合は全てお選びください）。

<メリット>  
☐ 1：自社の預貯金の金利上昇 ☐ 2：自社の投資利回り上昇  
☐ 3：行き過ぎた円安に一定の歯止めがかかり、輸入コストが減少 ☐ 4：個人の消費マインド改善

<デメリット>  
☐ 5：自社の借入金の金利上昇 ☐ 6：社債や株式等の資金調達環境の悪化  
☐ 7：急激な円高やそれに伴う輸出額減少 ☐ 8：取引先の投資マインド悪化  
☐ 9：個人の消費マインド悪化  
☐ 10：その他（ ）

問3-3 今後、借入金利が上昇した場合に想定される対応について、選択肢からお選びください。  
（複数該当する場合は全てお選びください）。

☐ 1：特に対策は行う予定はない ☐ 2：借入金の繰上げ返済  
☐ 3：新規借入の縮小・取りやめ ☐ 4：借入を行う銀行の変更（金利の低い銀行を選択）  
☐ 5：製品・サービス価格への転嫁 ☐ 6：新製品開発や販路開拓などによる収益向上  
☐ 7：予定していた設備投資計画の縮小・延期・中止  
☐ 8：新製品・新サービスの研究開発の縮小・延期・中止  
☐ 9：賃上げの見送り・縮小（定期昇給、ベースアップ、賞与等）  
☐ 10：新たな人材採用や社員の雇用延長（有期契約労働者等）の見送り  
☐ 11：純資産（利益剰余金等）の取り崩し  
☐ 12：その他（ ）

問4 事業承継についてお伺いします

問4-1 代表者のご年齢をおきかせください。

|         |        |        |         |
|---------|--------|--------|---------|
| 1 50歳未満 | 2 50歳代 | 3 60歳代 | 4 70歳以上 |
|---------|--------|--------|---------|

問4-2 貴社の事業承継について、現在のお考えに最も近いものをお選びください。  
☐ 1. 既に後継者を決めている ☐ 2. 後継者候補はいる  
☐ 3. 後継者を決めているが、事業は継続したい ☐ 4. M&A等で会社を譲渡する予定  
☐ 4. 自分ので廃業する予定 ☐ 5. M&A等で会社を譲渡する予定  
☐ 6. その他（ ）

問4-3 事業承継にあたっての課題や障害等についてお聞かせください【複数回答可】。  
☐ 1. 後継者への株式の移転 ☐ 2. 後継者への教育  
☐ 3. 従業員との関係構築 ☐ 4. 借入金・債務保証の引継ぎ  
☐ 5. 後継者の探索・確保 ☐ 6. 自社株の評価額の高さ  
☐ 7. 取引先との関係維持 ☐ 8. 分散した株式の集約  
☐ 9. 特になし  
☐ 10. その他（ ）

（コメント欄・・・以下の事項等についてご意見や事例をお寄せください ※調査結果に掲載することがあります。）

① 経営への寄与や影響（米国税関、円安、原材料・エネルギー価格・労務費等のコスト増や価格転嫁、人手不足、  
日銀の金融政策、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）、国内外の観光需要、祭事等のイベントや地域の  
トピック、天災、設備投資、公共工事・民間工事）

② 調査に関連する具体的な意見や事例

-----

以下の内容をご記入ください。（非公開内容となります。）

|                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 事業所名                |                              |
| 今後、希望するアンケートの受信方法   | FAX ・ メール （いずれかに○をお願いいたします。） |
| メールアドレス（メールでご希望の場合） |                              |

ご協力ありがとうございました。\*回答いただいた内容につきましては、川口商工会議所の運営に活用させていただきます。  
問い合わせ：川口商工会議所 総合政策課（TEL：048-228-2220）

調査方法：FAX・メール・郵送による送付、FAX・Web（Googleフォーム）による回答  
分析方法：売上高、採算、従業員、業況などについて、「増加」（好転など）と答えた企業から  
「減少」（悪化など）と答えた企業割合を差し引いたDI値を中心に分析  
（DI:Diffusion Index）

※飲食店の業種について

令和6年4月より日本標準産業分類の第14回改定が施行され、中分類76（飲食店）は小売業に分類されることになりました  
しかし当調査では、総務省・経済産業省「経済センサス」に基づき、飲食店をサービス業に分類して集計しています